

伝統と革新の街 京都にひつたりの

パークエクトな街のり、それが「スマート」

特別インタビュー アネット・ウインクラー氏（ダイムラー社スマート責任者）

小さなボディに、先進のテクノロジーを詰め込んだメルセデス生まれの「スマート」。このたび、ドイツ・ダイムラー社にてスマート責任者を務めるアネット・ウインクラー氏が来日。スマートの魅力はむちゅんのこと大都市との関わり、販売拠点となる京都への思いなど日本初のスマート専売店「smart center 京都,the garden」にて支店長代理、松島鴻太がワインクラー氏にお話を伺いました。

松島 まず、スマートの魅力についてお聞かせください。

アネット氏 ひとついえば、大都市で誰もが安心して走ることのできるパークエクトな機能を持つ「唯一のクルマ」であるということです。スマートは全長が2メートル69センチという非常にコンパクトなクルマです。しかし、コンパクトでありながらプレミアムな大型車と同等の安全・安心な運転環境を実現しています。また、ボディにプラスチックパネルを使用することによって常に軽量で卓越した小回りの良さを叶えました。京都のような狭い道が多い都市を走るにはパークエクト、申し分がないクルマといえます。

さらに、私たちが大切にしたのはスマートが乗っていて楽しい「見ていて楽しい」クルマであるということです。

スマートのフロントデザインは、大変ユニークです。スマートを運転している人、そしてスマートを見かけた人が思わずスマイルしてしまうような、そんな楽しいクルマであることをスマートの大きな魅力だと思います。

松島 小さなクルマは安全性能が心配されがちですが…

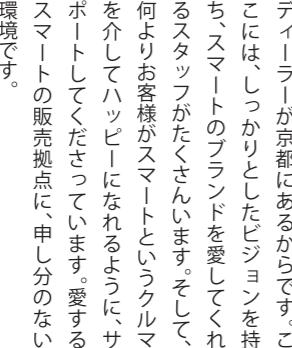
アネット氏 スマートには「トリニティオセンターフェティセル」という高強度なスチール製の骨格構造を採用しています。これは、わかりやすく言うと、万一の衝突から運転者や同乗者を守る、硬いクリミの殻のようなもの。その見た目から可愛らしいクルマという印象が強いですが、安全性に関しては開発以来、メルセデスの安全思想が凝縮された高い水準の性能を堅持しています。



トリディオンセンターフェティセル。強固な高強度スチールの使用比率を高めることであらゆる方向からの衝突時に乗員を保護します。



smart center京都,the gardenの2階、伝統的な日本家屋を現代的にアレンジしたゲストルーム。窓の外には美しい日本庭園が望める。



未来の「フォーツー」の方向性を示唆したコンセプトカー、「smart vision EQ fortwo」。AIと一緒に車両間、他の利用者、歩行者などをコミュニケーションを取り、完全自動運転が可能です。

松島 マツシマに期待することをお聞かせください。

アネット氏 スマートのブランドに対する情熱を一緒に共有していくたいですね。今、現代社会はさまざまな困難やリスク、悪影響にあふれています。しかし、それらを改善しよりよい方向へ導いていくためにも、私たちが思いを共有し共に大都市や社会に貢献していくたらと思っています。ここに作っていきましょう！



アネット・ウインクラー氏とsmart center京都,the garden支店長代理松島



ダイムラー社 スマート責任者
アネット・ウインクラー氏

西ドイツ・ヴィースバーデン出身。1995年にMercedes-Benzグループに入社後、シニアディレクター、広報やコミュニケーション部門のトップの役職を歴任。現在は、ドイツの自動車メーカー「ダイムラーAG:smart自動車部門」のCEO兼ディレクター。

KYOTO × smart

— インタビューを終えて —

松島 鴻太

ワインクラー社長とお会い、たくさんの事を感じました。社長はスマートに対する愛情・情熱が身体中から溢れておりました。そして何よりその人間性です。スタッフ一人一人に対しての細やかな気配りから強烈なリーダーシップを感じました。スマートセンター京都への期待も語っていました。自身、より一層责任感が増しました。社長から感じたスマート愛、そして情熱を前面に押し出してマツシマホールディングスマートセンター京都スタッフ一丸となって日本のスマートを牽引していきます。

